

公的医療機関等 2025 プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院

【地域において今後担うべき役割】（P13, P14）

知多厚生病院は美浜町・南知多町を中心に規模の拡大を図りながら、50年余りにわたり地域住民への良質な医療の提供に努めてきた。これまで増改築を繰り返しながら、平成10年に病棟、平成21年に診療棟の環境を整備し、救急医療、災害医療、へき地医療、感染症医療を中心に公的医療機関として責務を果たしてきた。

知多半島南部地域は地理的条件もあり人口の流動性が少なく減少が進み、年少人口、生産年齢人口の大幅な減少が推定されている。特に南知多町では人口減少が加速しており、10年後の高齢人口は40%に近づく予測である。

このような厳しい環境の中、知多半島南部地域における地域中核病院として、健全な経営を守りつつ、地域住民が安心して暮らせるように地域社会づくりの核として役割・機能を果たすことが求められている。

○医療事業

地域住民が住み慣れた地域に安心して住み続けるために求めていることは、その地域の病院が自分がもしもの時に医療が受けられる病院であるということである。こうした住民のニーズに応えていくために当院は今後も公的医療機関として**救急医療、急性期から回復期、慢性期、在宅医療、介護に至るまで住民に良質な医療を提供し、地域に貢献する病院を目指していく。**

知多南部地域における地域中核病院として現在の機能（救急医療、災害医療、へき地医療、急性期、回復期、慢性期）は保持しつつ、地域の開業医の支援として訪問診療や訪問看護などを充実していくことが求められている。

また、周産期医療に関して産婦人科医師の確保ができ、体制が整うまで半田市立半田病院との連携強化が求められる。

○介護事業

地域医療構想の中では知多半島医療圏においては療養型病床が不足していると分析されており、今後高齢化が進行するこの地域における、需要は高まってくることが想定される。当院が保有する39床の介護療養型病棟のあり方については、国の指針や介護報酬を含め6年間の猶予期間内に方向性を検討し決定していきたい。

【今後持つべき病床機能】（P15）

- 現状の急性期、回復期、慢性期医療、離島医療を維持する方向性である。
- また、診療圏の人口減少が大きい場合には病床の効率的運用や適正化を検討する。

【今後の方針】（P16）

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期			
急性期	記載なし		
回復期	記載なし		
慢性期			
(合計)			

急性期、回復期、慢性期について今後も病床数や機能に変更する予定はない。

(医療事業)

- ・医療事業については急性期を中心に回復期、慢性期機能を維持し、訪問診療や訪問看護ステーションを充実させ、在宅医療に至るまでシームレスに対応していく。
- ・現在の救急診療体制を維持し、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献していく。
- ・周産期医療を継続する。

(介護事業)

- ・介護事業の継続を前提に介護医療院などへの転換も含め、介護療養型病棟のあり方を検討する。

【その他の数値目標】（P16～P18）

・病床利用率

	H29	H30	H31	H32
一般床(199床)	82.50%	77.52%	79.94%	80.34%
医療療養型(15床)	76.22%	93.33%	93.33%	93.33%
介護療養型(39床)	80.41%	94.87%	94.87%	94.87%
全病床(253床)	81.81%	81.14%	83.03%	83.35%

※ 感染症6床は除く

※ H29は推定値

・手術件数

	H27	H28	H29	H30	H31	H32
手術件数	1,156	1,091	1,074	1,090	1,100	1,100

・照会率・逆照会率

	H27	H28	H29	H30	H31	H32
紹介率	4.1%	3.5%	3.7%	4.0%	4.0%	4.0%
逆紹介率	8.7%	9.3%	13.4%	13.0%	13.0%	13.0%